THE YOMIURI SHIMBUN
読賣新聞
2008年(平成20年)
6月15日 日曜日

震源周辺 複数の活断層

ひずみ集中帯 存在

メカニズム

岩手・宮城内陸地震の発生メカニズムについて、専門家はプレート（板状の岩盤）に押されて内陸部の岩石の変形が進む「ひずみ集中帯」の存在を指摘する。

国内では、阪神大震災や新潟県中越地震の震源域がある「新潟―神戸ひずみ集中帯」が知られている。東北地方でもひずみ集中帯の存在が確実視されており、文部科学省では今年度から5か年計画の研究事業を開始したばかりだった。

東北地方に存在するとされるのは奥羽山脈を中心に同地方を縦に貫く「東北脊梁山地ひずみ集中帯」。この地域では太平洋プレートが、日本列島が乗る北米プレート下に沈み込む。海側プレートが押す力に対し、陸側が押し返す力が働き、奥羽山脈付近では東西向きに押し合う力による大きなひずみがたまっている。

今回の震源近くには、北上低地西縁断層帯という活断層の巣がある。西側には1896年の陸羽地震（マグニチュード7・2）が起きた真昼山地東縁断層帯や横手盆地東縁断層帯などがあり、こうした活断層は、ひずみ集中帯と極めて関係が深いとみられている。

東北の地震活動に詳しい長谷川昭・東北大名誉教授によると、震源周辺では以前から、マグマ活動が原因とされる小地震が多発していた。これらもひずみの蓄積と関係があると見られ、同大地震・噴火予知研究観測センターが地震計の数を増やすなど、監視を強化していたところだった。

気象庁は、余震の震源分布などから、今回の震源付近には北上低地西縁断層帯とは別に、北東―南西方向に長さ約40キロ・メートルの活断層が存在するとみている。これが大きくずれて強い地震が発生した可能性がある。

今回の地震については未解明の点が多く、今後も慎重に見守る必要がある。気象庁は「今後数日は余震が活発になる」として、注意を呼びかけている。

東北の地震活動に詳しい長谷川昭・東北大名誉教授によると、震源周辺では以前から、マグマ活動が原因とされる小地震が多発していた。これらもひずみの蓄積と関係があると見られ、同大地震・噴火予知研究観測センターが地震計の数を増やすなど、監視を強化していたところだった。

気象庁は、余震の震源分布などから、今回の震源付近には北上低地西縁断層帯とは別に、北東―南西方向に長さ約40キロ・メートルの活断層が存在するとみている。これが大きくずれて強い地震が発生した可能性がある。

今回の地震については未解明の点が多く、今後も慎重に見守る必要がある。気象庁は「今後数日は余震が活発になる」として、注意を呼びかけている。

東北の地震